歩兵第百三十五連隊第一大隊

年月日	概要
昭一九、七、二四	陣地の位置 テニヤン島中地区（ラソー南側） 戦斗の概要 米軍上陸時には中央予備隊として守備隊長の直轄であつたが、第三中隊を除く大隊主力はテニヤン港正面に上陸を企図せる米軍を攻撃のため、テニヤン町に急行歩兵第五十連隊第三大隊の右に展開、隣接部隊と緊密に協同して米軍に対し猛烈なる攻撃を加え遂にその上陸企図を挫折せしめ、之を撃退することを得たが大隊も亦多大の死傷者を生じた。 次いで、兵力を反転し、ワネハーブイの米軍上陸陣地に対する夜襲戦に参加することとなり、中央第一線としてラソー北側に展開二十時を期し、壮烈なる突撃を敢行したが敵況われに利あらず、終夜に亘り突撃を反復せしも、死傷相次いで増大し、大隊長以下、大隊主力の大部分は壮烈なる戦死を遂げた。 逐次残存兵力を集結しつつ力ロリナス台地に後退す。
二五	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
七、二九	サロリナス台上に於て戦車を有する米軍主力部隊の南進し来るのを発見し、之に対し歩兵五十連隊才二大隊の左に展開壮烈なる攻撃を加え突撃を敢行して遂に全員戦死した。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十三師団兵器勤務隊

（第二九四一部隊）

年月日	概要
昭一九、五、八	横浜港出帆
五、一九	サイパン島上陸
六、一五	米軍上陸開始と共に之と交戦
七、一八	殆んど全員戦死の模様

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十三師団野戦病院

年月日	概要
昭一九、四、二一	軍令陸甲第三十九号に依り下令
二五	編成完結
	編成場所　名古屋歩兵第六連隊補充隊営庭
五、八	名古屋駅発
一四	横浜港出帆
	館山出帆
五、一九	サイパン港上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才四十三師団経理勤務隊

年月日	概要
昭一九、四、一一	軍令陸甲第三十九号動員下令せられ、
二九	名古屋市外守山町捜索第四十三連隊に於て編成せらる、
五、七	部隊長陸軍主計中佐大川英夫以下　六一七名は任地に向い、名古屋出発、（以後の行動不明）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立噴進砲中隊（隊才一八三三〇部隊）略歴

年月日	概要
昭一九、六、五	編成 編成地　東部才十五部隊（赤羽工兵隊） 編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷 陸軍大尉横山義夫下士官十名、兵四〇名、噴進砲二〇門　噴進弾数百、独立噴進砲中隊才一砲兵旅団本部の指揮下に入り間もなく解散、中隊は旧砲大隊より兵力加入中隊を才一小隊配属、小林少佐の指揮下に入る。 参加せる主要なる作戦 噴進中隊は南海岸五百米砂原陣地（才一陣地）にて上陸部隊の砲車、間もなく敗れ、才二陣地玉名山南方部落に撤退、二段岩激戦に参加
二〇、三、八	矢田全部隊才三飛行場に集合、峯山作戦に参加、当時中隊は少数人員最後に北地区戦にて敗戦、私は七名の兵を連れ玉名山の防空壕にて毎日の任務を続けて居りました。
三、一七	終戦より帰還迄の行動 黄硫島、父島間の連絡不通、大本営の（全員戦死）発表あり、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、四、一〇	米軍に収容され、米領へ
	黄硫島よりグワム島収容所行き
	グワムよりハマイマアーリン収容所及ビアーミン収容所に移動、更に米本土サンフランシスコ到着
	カルホルニヤ州及テキサス州のケネリキヤンプに約六月、毎日娯楽にて日を送つて居り、最後に合衆国の北を通過、シヤトル港に到着
一三、七	シヤトル港出発、浦賀に向い、
二、一、四	到着

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立速射砲第八大隊（臘第三八五五部隊）略歴

年月日	概要
昭一九、六、	編成
	編成地　甲府市東部第七十六部隊
六、二七	横浜港出発
二九	父島に第三中隊を残存す
三〇	硫黄島上陸、警備につく、
	サイパン島増援の目的であつたが、中途変更となり臘部隊指揮下に入る。
	直接部隊として南地区隊に協力す
二〇、二、	硫黄島に米軍上陸彼我三日間夜その重囲下を脱して旅団主力と合せんとし、
	摩耳岩附近に於て全滅す。
	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	編成　大隊長以下四八〇名　本部一、砲隊三、修理隊一、
	中隊長以下一二四名　指揮班小隊三、弾薬小隊一
	装備　大隊MG二、無電一、
	中隊IG一、TA四（四七ミリ）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	サイパン増援部隊として編成され中途任務を解かれて隷部隊の指揮下に入り直轄部隊として終始戦斗として全滅す
昭一九、六、三〇	参加せる主要なる作戦
	硫黄島南地区（玉名山南方南はとば附近）にあって警備にあたり主として陣地築造に当る。
〃	十一回の艦砲射撃及六十四日間の連続爆撃を受けたる後、
二〇、二、	米軍上陸戦斗に当り六三日目夜全滅す
	終戦より帰還迄の行動
	終戦部隊は残存せず。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立速射砲十六隊部隊略歴

（賜第六〇二五部隊）

年月日	概要
昭一九、六、一九	編成
	編成地　大阪
六、二〇	大阪出発
二一	田浦着
二九	巡洋艦にて田浦出航、
三〇	父島に夜上陸す
七、四	部隊、戦列部隊全員SB艦に分乗、硫黄島に向う、
	出発直前敵機約一千機の爆撃を受け出艦不能、再度父島に上陸す
一四	以後単艙にて硫黄島に上陸
二〇	輸送完了
	硫黄島上陸後、部隊は、第一中隊は摺鉢山地区に、第二中、第三中は西地区に配属せらる。
	本部は摺鉢山地区、隊本部として各々同島守備

1459

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、二、一六	敵の上陸
一九	準備並に上陸に対し対戦
五、一二	迄、遂次戦死、全滅す
	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	編成装備　本部・三中隊　単列小隊（人員三一〇名）
	40mm速射砲　十二門　自動貨車　四
	其の他　若干の短小銃
	指揮隷属関係
	第二、第三中隊は四地区隊に配属
	第一中隊は摺鉢山地区隊に配属
	本部は弾列小隊を直轄とし、摺鉢山地区隊本となり摺鉢山地区隊（独歩一大、
	野砲一中、迫撃一中、工兵一小）を指揮す
	敵上陸後、海岸部隊約一千を併せ指揮す
	変遷なし
	参加せる主要なる作戦
自一九、七、二〇 至二〇、二、一五	硫黄島警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自二、一六 至五、一二	敵の上陸作戦に対し対戦す
	西地区隊配属の第二、第三中隊は
三、二六	迄に全員戦死せるものの如し
	摺鉢山地区配属迫射砲は天然の地形を利用し、当初敵戦車に甚大なる損害を与えた。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立速射砲第十二大隊部隊略歴

（隷第七一八〇部隊）

年月日	概要
昭一九、六、一九	編成
六、一九	編成地　山口
六、一九	山口連隊に於て編成
六、二八	編成直後出発　横須賀に向い
七、一	横須賀出帆
七、二九	父島上陸
八、一	父島出帆
二〇、三、一六	硫黄島に上陸
	全滅す
	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	栗林兵団に属し（兵団長栗林中将）第一旅団は父島に第二旅団と硫黄島に位置す
	独速第十二大隊は硫黄島に在りて兵団直属であつたと記憶す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自一九、七、一 至一九、七、三〇	編成　大隊本部　第一中隊　第二中隊　第三中隊　弾薬小隊　各中隊は　指揮班　第一小隊　第二小隊　各小隊二門編成（速射砲　四十七粍砲）
一九、八、一	参加せる主要なる作戦
二〇、二、一六	父島の警備
二、一九	硫黄島の警備並戦斗
三、一六	父島より転進
	米軍機動部隊来襲
	米軍上陸
	全滅す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第十七連隊部隊略歴

（謄第七一五七部隊）

年月日	概要
昭一九、七、	編成
	編成地　第一大隊　島根県浜田市
	〃二〃　山口県山口市
	〃三〃　広島県広島市
七、	横浜出発
七、	父島上陸
	第三大隊硫黄島守備（硫黄島にて玉砕）
	第三大隊を除き父島にて終戦を迎う
二〇、八	内地帰還
一二、	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	編成　連隊本部　歩兵三ヶ大隊、工兵一ヶ中隊、歩兵砲一ヶ中隊
	終戦時　連隊本部　歩兵二ヶ中隊、工兵一ヶ中隊　歩兵砲一ヶ中隊
	参加せる主要なる作戦

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

父島守備
終戦より帰還までの行動
終戦時の駐屯地に集結　逐次帰還
第二大隊は浦賀に上陸
第一大隊及工兵中隊は広島県大竹に上陸
残部も大竹帰還（残部については帰還後につきはつきりしません）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第十七連隊第三大隊部隊略歴

（謄第七一五七部隊）

年月日	概要
昭一九、七、五	編成
七、七	編成地　広島
七、一〇	広島出発
七、一五	横浜港出発　故障により帰港
七、二〇	横浜再出発　潜水艦の攻撃を受け爆沈、死傷軽
八、二〇	小笠原那島父島に上陸
二〇、二、一一	同硫黄島に進出
二〇、三、二〇	敵上陸
	全員戦死
	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	山口より一大隊　浜田より二大隊　広島より三大隊出て一個連隊を編成す
	連隊長塗田より飯田連隊長を経て小笠原群島に於ては矢田長栄林中将の隷属下にあり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

参加せる主要なる作戦
小笠原群島父島の警備
小笠原硫黄島の戦斗に参加
参謀と師団通信間の主要なる事にたずさわっていたため私は終始衆林中将及
各参謀と行動を共にしていたため硫黄島の戦斗経歴に関しては全部知っている
ます。特に矢田の行動については始めより終りまで詳しく存じていますが、
この用紙には書くことはできません。
終戦より帰還迄の行動
私は終戦の時には米軍の手によりハワイ海軍病院に収養されて居りました。
帰還迄約二年間布哇に於て負傷のため治療中でした

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立機関銃第二大隊部隊略歴

（騰第七八三八部隊）

年月日	概要
昭一九、六、二四	編成 編成地　千葉県我孫子東部第八十三部隊 編成担任部隊東部の八十三部隊 大隊本部要員は大部分担任部隊より成る、 第一中隊、第三中隊の二ヶ中隊は（金沢、福井） 第二中隊東北（福島）編成の混成大隊にて主としてサイパン島要員として編成す 編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷 大隊本部　一〇名 第一中隊　一〇八名 第二中隊　一〇八名 第三中隊　一〇八名 計　三三四名　栗林矢団隷属

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七、一四	参加せる主要なる作戦
二、一四	黄硫島に上陸、栗林兵団指揮下に入り警備
一九	軍配備移行命令
三、一七	米兵上陸
	総攻撃全滅す
	終戦より帰還迄の行動
	軍配備移行命令と同時に硫黄島野戦病院前進繃帯所と臨時配属と同時に大隊
二、一、四	本部と連絡断
	浦賀上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

中迫第砲第二大隊部隊略歴

（隷第九七〇四部隊）

年月日	概要
昭一九、六、二二	編成完結
	編成地　久留米五十一部隊
	久留米五十一部隊に於て中迫第二大隊編成
七、	横浜出発
七、一四	硫黄島上陸、爾来陣地構築と戦斗訓練
二〇、二、一四	敵機部隊接近の情報入手
二、二〇	敵の艦砲射撃、空爆始まる
二、二一	上陸来攻
三、二七	最後の切込、飛行場に向い。
	編成装備並に指揮線渡岡係及其の変遷
	中迫（十五糎）中隊三、　弾薬各門　二五〇発
	軽迫（七糎）中隊、　編成人員六三〇名
	全弾射耗、歩戦斗に移る
二、末	

四外

1470

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、一三	小生負傷
一六	米軍約四千　北鼻葉砦
一九	中尾少佐戦死
二三	方一回全軍切込
二七	最後の切込は栗林中将以下戦死
一七	無線破壊
	参加せる主要なる作戦
	中迫方二大隊は方一中隊を摺鉢山に配属
	主力を西海岸砲兵群に置く
	群長中尾少佐
二四	摺鉢山は殆ど壊滅す
	終戦より帰還迄の行動
	部隊中生存者　約一三名
	全員負傷後五、六月中に米軍に収容され、ハワイ或は米本国に送られ、
	迄に復員
自二一、至二二、	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

中迫重砲第三大隊部隊略歴

（謄第五八九三部隊）

年月日	概要
昭一九、六、二〇	編成
	編成地　世田ヶ谷東部十二部隊
六、二〇	編成下令
六、二三	編成完結
六、二七	横須賀出港
六、二九	父島入港
七、三	父島出港
七、一四	硫黄島上陸
二〇、二、一五	戦斗配属
二、一八	米軍上陸（午前十時）
	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	本部　八〇名　大隊長小林孝一郎（当時五十二才）
	一中一〇〇名　各中隊中迫重砲（十五糎）四門（十二門）弾薬二、〇〇〇発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二中一〇〇名　小銃兵三名に付き一銃（弾薬二〇発）
三中一〇〇名　手榴弾一名に付き二個（上陸後補給）
段列　二〇名　拳銃　二六式　一五（実砲十五発）
拳銃　一四式　（実包なし）

二〇、二、一五　参加せる主要なる作戦
二、一八　旅命に依り戦斗配属につく
三、二　通信連絡たえ、戦砲隊陣地に転進
三、一六　旅命同島東地区宿営地に転進応戦す
三、二〇　混成第二旅団長千田少将指揮のもとに大隊全員北地区に斬込む。
旅団以下主力戦死す
六、一五　終戦より帰還迄の行動
負傷し米軍に収容され
ガム島に収容二週間
二〇、　ハワイ島に上陸一ヶ月
二一、一、五　米国上テキサス州に五ヶ月
シヤトル出港
一、八　浦賀上陸
帰郷

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

戦車第二六連隊部隊略歴

（膳第一二〇七六部隊）

年月日	概要
	満洲北部国境捜索連隊なるも比島方面に動員と同時に南城に於て戦車二十六連隊を編成し硫黄島に配置さる。私は硫黄島に単独赴任せるを以て部隊の前歴不詳
	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	編成　部隊本部　鈴木少佐
	第一中隊　鈴木大尉（五三期）　長島中尉（五六期）
	第二〃　斉藤大尉（五四期）
	第三〃　西村大尉（五五期）
	歩兵〃　竹田大尉（特志）　大谷中尉（幹）
	砲兵〃　岸大尉（五六期）　広芝中尉（〃）
	工兵小隊　山下少尉（特志）
	整備中隊　左山大尉（五五期）　斉藤少尉（幹）
	参加せる主要なる作戦

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

硫黄島作戦

第一中隊二段岩高地前に布陣し対戦車戦斗に依り完全玉砕

第二中隊辰巳大隊正面対戦車戦に依り戦車四を失い、残存部隊は部隊本部近接防禦戦に参加

第三中隊玉名山戦斗に軽車のまま戦斗するも後部隊本部へ整備中隊兵団全車輌の整備部隊に任じ各種弾薬補給に任じ、玉砕す

歩兵中隊第一飛行場防禦戦斗に挺進攻撃するも后部隊本隊近接戦斗の根幹となる。

砲兵中隊は戦車戦斗に唯一の致命的打撃を与す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立臼砲第二十大隊部隊略歴

（聯第一二七一〇部隊）

年月日	概要
昭一九、四、	朝鮮馬山府朝鮮馬山重砲兵連隊に於て編成
自一九、四、六、三〇	北馬山に於て訓練及待機
七、一	釜山港出発
	横浜
一四	硫黄島に到着、爾後陣地構築其の他に従事
二〇、二、一三	米軍上陸開始のため之に応戦
三、二七	無負傷者全員斬込
	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	臼砲中隊　二ヶ中隊
	迫射砲中隊　二ヶ中隊
	高射砲大隊長長尾少佐の指揮下に入る
	参加せる主要なる作戦
一九、六、三〇	采船

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七、一	釜山入港、釜山出港
七、一四	硫黄島に到着上陸 陣地構築其の他に従事 終戦より帰還迄の行動 米軍の保護により硫黄島——ガム島——ハワイ——桑港——（忘却）—— テキサスに移転後、
二、一、二五	横須賀港上陸
二、二六	復員帰郷

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

父島百九師団司令部隊略歴

（膽才一八三〇二部隊）

陸軍中将　立花芳夫

年月日	概要
昭二〇、三、二三	硫黄島の失陥に伴い父島に在りし混成才一旅団司令部及硫黄島より派遣せられありし父島派遣司令部に合併して才百九師団司令部を編成す
	混成旅団長陸軍少将立花芳夫進級の上師団長に補せらる
	其の後、部隊は築城、訓練に努め終戦に至る。
三、二三	編成
	編成地　父島
	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	元来才百九師団司令部は硫黄島に在り（師団長栗林中将）父島には混成才一旅団（司令部才三〇五、才三〇六、才三〇七、才三〇八、独歩大隊、旅団通信隊及旅団工兵隊あり、これに混成才十七連隊（才三大隊欠）父島砲兵隊、才十七船舶工兵隊、砲船場司令部、貨物廠、兵器廠の各一部等配属せられありたり。

1478

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	右の外硫黄島より堀江少佐参謀を長とする将校一〇、下士官兵約三〇名より成る派遣司令部所在せり。
二〇、二、一〇	参加せる主要なる作戦
	以降終戦まで連日連夜防空戦斗に終止せり。
	終戦より帰還迄の行動
二〇、九、三	現地海上に於て降伏調印以後復旧作業に従事す。
一二、末	帰還輸送を開始し
二一、四、上旬	戦犯関係者を除き、之を終了す
四、一六	戦犯関係者立花中将以下二十五名の容疑者、堀江少佐以下四〇名の証人父島出発、グアム島に至り裁判に出場
一〇、六	証人は名古屋に帰還復員す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

父島憲兵隊部隊略歴

（謄写一七五〇二部隊）

年月日	概要
昭一九、八、五	編成
	編成地　父島
	横浜憲兵隊父島憲兵分隊として昭和十五年新設せられ、
八、五	戦況悪化に伴い第百九師団長の隷下に入らしめ終戦時に至る。
	編成装備並に指揮隷属及其の変遷
	編成　長　大尉　一
	附　准尉　一
	〃　曹長　二
	〃　軍曹　三
	〃　伍長　一
	軍属　二
	参加せる主要なる作戦
	父島に於ける島嶼防禦作戦準備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二一、一、 二一、四、 一〇、	終戦より帰還迄の行動 終戦後米軍M・Pと協力、日米両軍の紛争防止及治安維持に任じ 同島全兵力帰還、但し隊長磯田大尉は戦犯容疑者として父島に残留、 裁判の後グアム島に越き 無罪となりて帰還

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

父島方百九師団通信隊部隊略歴

（賠方一八三〇三部隊）

年月日	概要
	編成
昭一九、六	編成地　東京
	昭和十九年方百九師団編成時東京で編成した部隊を主として父島重砲の一部と共に師団通信隊を編成し本隊は司令部と共に硫黄島（隊長森田豊吉当時中将）に支隊を父島に（隊長吉岡健児）分れたが、本隊は硫黄島にて玉砕す。
二〇、二、	父島の方二旅団を主とした師団再編成せられ前記支隊を旅団通信隊と合併し新に師団通信隊を編成し終戦に至る。
	編成装備並に隷属関係及其の変遷
	方一期師団通信隊
	栗林中将を師団長として二ケ旅団編成の師団通信隊とし、本隊は師団司令部と共に硫黄島に在りて玉砕
	支隊は父島にありて師団派遣参謀に属し残る。
	方二期師団通信隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	硫黄島の師団司令部の潰滅に伴い父島の旅団長が師団長になり師団編成となるに及び前記師団通信派遣隊と旧旅団通信隊と合し旅団通信隊長が師団通信隊長となる。 器材　室一号一、二号二、三号甲其の他多数 下士兵約　二五〇名 将校（主計 軍医）共　七名
	参加せる主要なる作戦 昭和十九年八月より終戦迄 1、参謀本部　父島　硫黄島師団司令部との一切の連絡通信 2、防衛司令部との防空警報通信 3、沖縄母島との連絡 4、本隊は硫黄島の戦斗
二〇、二、	終戦より帰還迄の行動
二〇、一、一	終戦後父島に於て占領軍の指示により待機 父島発帰還

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第三〇三大隊部隊略歴

（膳第一八三〇六部隊）

年月日	概要
昭一九、六、	編成
	編成地　小笠原父島
	元父島要塞部隊
	大東亜戦に入るや部隊改変に伴い独立歩兵第三〇三大隊の誕生父島の警備
八、二九	父島出発　母島に上陸　母島の警備
二〇、六、	母島出発　父島に復帰、父島の警備
二、二七	父島出発帰還
	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	イ、編成　一般小銃中隊
	MG中隊
	大隊砲中隊
	ロ、装備　大隊砲（二）
	MG（二十一）　追加を含む

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	TA（二）
	迫撃砲（四）
3、指揮隷属	
	隷属十一師団
	指揮混成十一旅団
4、戡定の概要	
	当初より十一師団　隷属混成十一旅団の指揮に入る。
	混土旅硫黄島師団玉砕後十一師へ改変す
参加せる主要なる作戦	自一九、二九
父島要塞部隊より改変　独立歩三〇三大隊へ、其の後父島の警備	至二〇、六、一三
母島の警備	自二〇、六、一三
父島の警備	至終戦
終戦より帰還迄の行動	
終戦後米軍の上陸まで専ら精神的に部隊の団結を図る。	
上陸前は上陸地の清掃、兵器、弾薬の集積、格納引渡作業	
帰還迄各種職業専門家を集めて兵将校の教育	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第三〇四大隊部隊略歴

年月日	概要
昭一九、二、二六	第五十四要塞歩兵隊編成下令
二八	動員完結（於京都歩兵第百二十八連隊補充隊）
三、二六	父島上陸小笠原集団第三十一軍隊下に入る。
五、二二	軍令陸甲第五八号に依り臨時編成下令
六、三〇	第五十四要塞歩兵隊復帰、同日独立歩兵第三〇四大隊編成完結（小笠原諸島）第百九師団隊下に入る。
	指揮隷属関係及其の変遷
	前項に同じ
	参加せる主要なる作戦
	1. 父島守備
	2. 死傷者　戦死　二三名
	負傷　一〇名
	3. 衛生
	土地固有の悪疫少かりしも戦況苛烈なるに至り栄養失調症出現ありしも

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、上旬

他は概ね良好なり。

疾病による内還　二三名

給養

4

給養に関しては離島作戦の性質上殊に昨年十二月上旬以降完全に内地よりの補給遮断せらるる為糧秣保全食延に努め、保全に関しては分散及洞窟格納を行うと共に虫害鼠害並に爆撃被敗予防に万全を期し併せて盗難防止を厳にせり。食延しに関しては逐次定量を減じ終戦前には主食三五〇瓦、副食之に併行し在内の如き五〇瓦に低下せり。

この間矢は作業量の増大に逆比せる食量の為椋梧及丸八の芯等を食する者多く逐次栄養失調患者を増加するに至れり。

一方糧秣獲得の積極方針として一人約七〇坪を目途とせる耕地開拓に努め主として甘藷及印度南瓜を以て代用主食品とせる自活に邁進、漁撈の実施と共に現地自活の徹底を期し其の成果漸く著にっかんとして終戦となれり。

終戦後主食を五〇〇瓦副食も之に併行せしめ在内一五〇瓦に増量し逐次重労働者には主食六〇〇瓦――八〇〇瓦を支給するに至れり。

糧秣は完量五〇〇瓦として明年一月頃迄確保するの状況裡に父島を撤退せり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	之を要するに文島に於ける当隊の給養は保全食延現地自活の三者良好裡に実施せられたるものと称す可く、特に終戦後に於ける給養は頗潤良好裡に推移せり。 終戦より帰還迄の行動 詔書喚発され停戦協定締結さるるや部隊は専ら復員準備に努力し職業補導及体力恢復に重点を置き一方米軍進駐に伴う諸雑役に服し現在に至る。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第三〇五大隊部隊略歴

（勝第一八三〇八部隊）

年月日	概要
昭一九、二、二六	編成
	編成地　山口県
二、二六	編成完結
三、	編成地出港、東京に向う
三、一九	芝浦乗船、同出港
三、二三	小笠原諸島到着、旧要塞司令官の隷下に入り　父島北方二キロ兄島警備
六、	編成改正に依り父島の硫黄島に夫々一ヶ師団あて編成す。
	要員不足の将校の下士官兵は主として千葉、埼玉両県より補充せらる。
	編成　三〇五大隊と称す
七、	到着以来警備の兄島より父島に転進す。父島南部を警備す
二〇、一二、	第一回内地引揚を終了したものの如し。
	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	イ、編成装備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	独立歩兵大隊東部一般小銃中隊四　MG中一、TA一　編成改正後の編成 2、指揮隷属関係 小笠原到着時は要塞司令官の指揮に入る 編成改正後は新なる師団長の隷下に入る。 3、其の爆撃の概要 参加せる主要なる作戦 島嶼警備にして「サイパン」陥落後は敵機動部隊敵機の来襲甚だし、これらに対し警備せし程度として特に記すべきことなし。 終戦より帰還迄の行動 終戦後約一ヶ月位して米軍陸上部隊上陸 米軍の指示に基き島内の一般情報に従事すると共に物資兵器其の他米軍引わたしのため、部隊の整理引渡し等に従事する。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第三〇六大隊部隊略歴

（謄第一八三〇九部隊）

年月日	概要
	編成地　士官学校教官より父島派遣の為不明
	大平洋戦争一年前の日本本土防衛第一線として南方小笠原父島に前橋陸軍予備士官学校より現地中隊長となり専ら防衛任務（防禦作戦）に服す。
	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	宇都宮歩兵十四師団歩兵第五十九連隊入隊
	右部隊歩兵少尉として十三年北支派遣（支那事変作戦参加）後北満警備
昭一三、一二、	陸軍中尉
一七、八、	前橋陸軍士官学校教官となり幹部候補生教育
一七、八、	大尉㊐作戦本土防衛の為見習士官引率し島嶼防衛父島警備に任す
一九、八	参加せる主要なる作戦
一三、四	見習士官として支那事変中北支にて作戦従事、
二、	歩兵少尉
一八、八、	満州チ、ハル、アルシヤル附近にて北満警備、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一六、八	中尉 其の後内地にて士官学校教官中太平洋戦争のため本土防衛の任務服務のため父島防禦作戦従事、中隊長、大隊長代理。
二〇、一二、末	終戦より帰還迄の行動 父島島嶼防禦中終戦となり現地にて米軍の其の後に於ける作戦任務に協力し米軍用船に依り日本浦賀港に上陸、同地に於て編成を解き各々郷里に帰る。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第三〇七大隊部隊略歴

（謄第一八三一〇部隊）

年月日	概要
昭一九、七、一	編成
一九、七、	編成地　父島
二〇、八、一五	父島に於て編成、主として島嶼警備
二、二、七	終戦
二三、	父島出発、内地帰還
	故郷へ
	編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷
	歩　三ヶ中隊
	MG　一ヶ中隊 ＞ 三〇七大隊 ― 師団
	元東部三七部隊編成へ
一九、七、一	編成換へ
	参加せる主要なる作戦
	島嶼警備（父島）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一〇外

年月日	概要
	終戦より帰還迄の行動 父島清掃作業 野菜栽培

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第三〇八大隊部隊略歴

（騰第一八三一一部隊）

年月日	概要
昭一九、六、一	編成完結
	編成地　小笠原父島
	編成装備並に指揮隷属関係及其の異動
	編成　一般中隊　三
	機関銃中隊　一（機関銃一二）
	歩兵隊中隊（砲兵四）
	指揮関係
	一〇九師団に隷属
	参加せる主要なる作戦
	父島警備
	終戦より帰還迄の行動
	終戦により父島に集結、島内清掃業

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

重砲兵第九連隊部隊略歴

（謄才一八三二六部隊）

年月日	概要
昭一九、七、	編成
	編成地　小笠原父島
	部隊の編成
一九、七、	編成と言っても父島要塞重砲兵連隊を改編せるものなり。
	父島要塞重砲兵連隊は
一九、九、	動員下令　横須賀重砲兵連隊まで編成を担任せられ、
六、一二	編成完結
八、	小笠原父島に上陸
	東部軍の隷下に在りて専ら戦備に邁進す
	大東亜戦争勃発に依り中部太平洋方面軍（通称）備部隊師団司令部サイパン（長小畑中将）の隷下に入りしが
一九、	サイパン島玉砕後は小笠原団（師団司令部硫黄島長栗林中将）の編成により
	必要重砲兵隊改備せられ、一部を師団砲兵として硫黄島へ、一部は母島へ、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大部を父島に置き、重砲兵第九連隊と称し、父島に於ける警備及戦斗に参加す。

編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷

編成当時は小笠原兵団（師団長栗林中将）の隷下に在りしが、硫黄島玉砕後は父島に於て独立師団の隷下となる。

連隊本部

第一中隊　十五糎加農四門

第二〃　二四糎

第三〃　七糎速射加農四門

第四〃　十糎加農二、野砲一、十二糎加農一

第五〃　野砲二、高射機関銃二

臨時配属せる七糎高射砲一

第六〃　野砲二、高射機関銃二

臨時配属せる七糎高射砲一

第七〃　本来は師団高射砲など硫黄島玉砕せる後は敵の上陸、戦斗を予想し平射に転移、

重砲隊長の隷下に入らしめらる。

七糎高射砲六門、高射機関銃四

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十一外

年月日	概要
	高射機兵砲に運搬に基く
	参加せる主要なる作戦
	父島に於ける要塞砲兵なるを以て島内要点に分散配備し敵の来襲時以外は警備並戦備の強化に邁進す
	戦斗
昭二〇、六、一五	未明の空襲に始り、同早暁米艦隊よりする砲撃等に応戦、爾来毎日の如く行わる。
六、一五 八、四 九、一五	大型機、小型機の来襲の応戦（延約千機） 艦砲射撃　三回
一二、	終戦より帰還までの行動 現地配属のため其の位置に於て各隊毎に集結し、兵器、被服の返還業務 弾薬の投棄等残務整理を行い、 引揚を開始す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設第四十五機関砲隊部隊略歴

年月日	概要
昭一九、八、二五	編成完結
	於 東部第七十四部隊補充隊
	野重第十八連隊補充隊
九、三〇	横浜港出港
一〇、九	父島上陸
	小笠原矢田長の隷下に入り小笠原方面父島特別根據地隊司令官の指揮を受け
	防空戦斗に従事す
二〇、五、三〇	海軍司令官の指揮下を脱し小笠原矢田長の指揮下に復帰し前任務を続行す、
	復員人員調査
	編成人員　八五名
	復員人員　七七名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp